

ショッピングセンターに出店する、多種多様な店舗を対象に 買い物袋 有料化に関する調査を実施

有料よりも無料配布している店舗が多い結果に

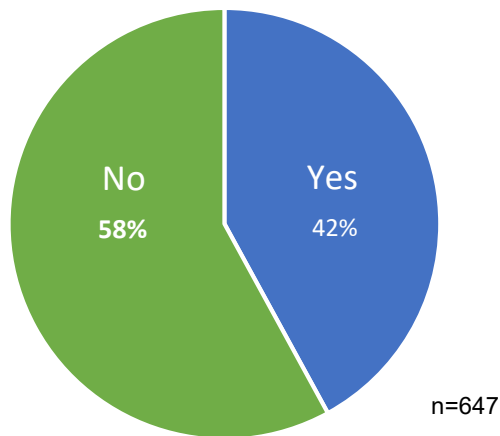
東急線沿線を中心にショッピングセンターを運営する株式会社東急モールズデベロップメント（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：秋山浄司）は、当社14の施設（※1）に出店するアパレル、生活雑貨・服飾雑貨、食品、飲食、サービスに属する店舗を対象に、買い物袋の有料化に関するアンケート調査を2020年6月に実施しました。

資源・廃棄物制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化など、地球規模の課題が深刻さを増しています。「容器包装リサイクル法」の省令が改正され、2020年7月1日からプラスチック製買い物袋（以下、レジ袋）の有料化が義務付けられました。多種多様な店舗の集合体であるショッピングセンターを運営する当社では、出店店舗におけるレジ袋有料化を含む買い物袋の配布について調査。主な結果は以下のとおりです。

調査結果サマリー

- 買い物袋を有料化と回答した店舗は全体の42%で、有料よりも無料配布している店舗が58%と多いことが判明。
- 食品を取り扱う店舗の74.6%が買い物袋を有料化と回答。一方、アパレル店舗は29.2%のみが有料化。
- 環境性能が認められるレジ袋（※2）を無料配布している店舗は全体の25.7%で、有料化している店舗が15.9%という結果になった。有料化の対象でない環境性能が認められるレジ袋を有料にしている店舗が一定数あることが判明。
- 有料化が義務付けられていない紙袋を有料にしていると、全体の15.6%の店舗が回答。
- 環境性能が認められるレジ袋と従来のレジ袋の価格について、それぞれ約6割の店舗が5円以下で設定。

◇ 商品購入時における買い物袋を有料化していますか。



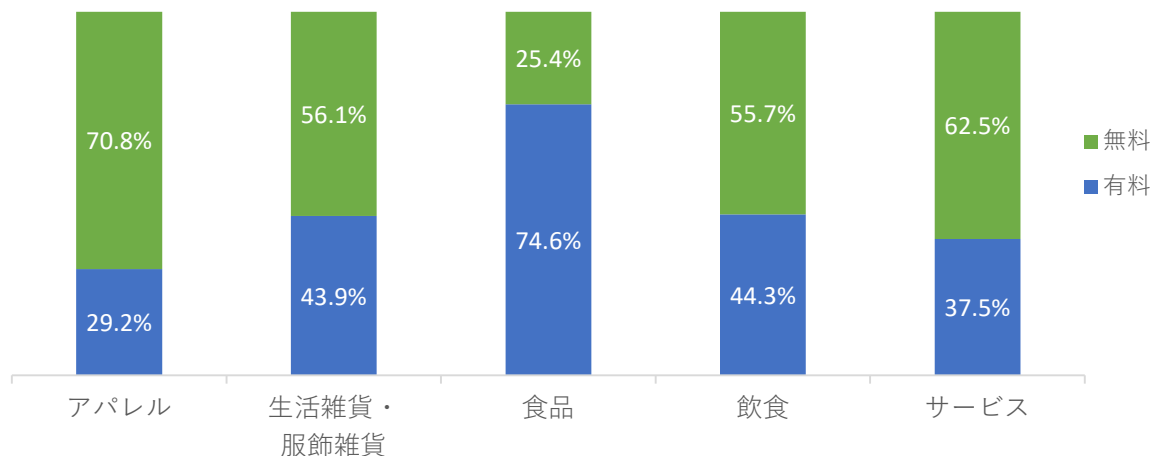
有効な回答を得た647店舗のうち42%が買い物袋を有料化と回答。無料配布は58%で、有料よりも無料で配布している店舗が多いことが判明。レジ袋有料化をきっかけに消費者の行動やライフスタイルに変化を及ぼしているが、資源の抑制につなげるために、無料配布を止めることを通じ過剰な使用を抑えるという観点では、課題が残る結果になったのではないだろうか。

※1 二子玉川ライズ ショッピングセンター、たまプラーザ テラス、グランベリーパーク、港北 TOKYU S.C.、青葉台東急スクエア、武蔵小杉東急スクエア、五反田東急スクエア、みなとみらい東急スクエア、東急スクエア ガーデンサイト、中央林間東急スクエア、静岡東急スクエア、香林坊東急スクエア、レミィ町田、あざみ野 三規庭

※2 「プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上のもの」「海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のもの」「バイオマス素材の配合率が25%以上のもの」のいずれかのプラスチック製買物袋

< 買い物袋配布に関する業種別結果 >

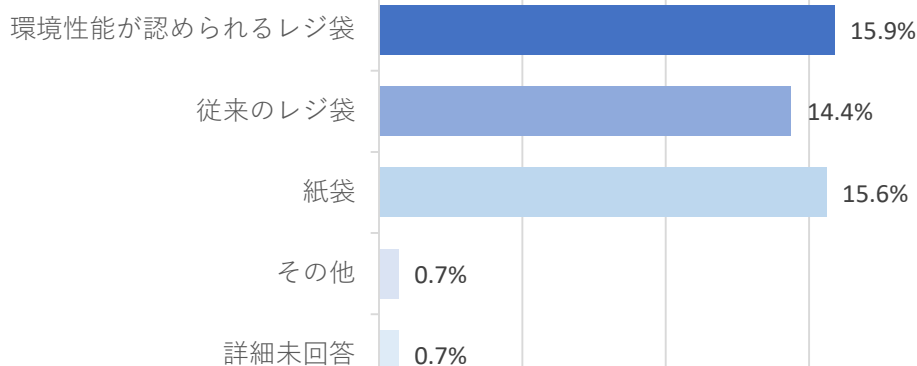
食品を取り扱う店舗においては、74.6%が買い物袋を有料化している結果になった。一方、アパレル店舗は、有料化している店舗が29.2%と少ないことが判明。食品など、日常的に利用する業種は有料化傾向にあり、アパレルやサービスなど日常使っていない店舗は無料配布している傾向にあることが分かった。



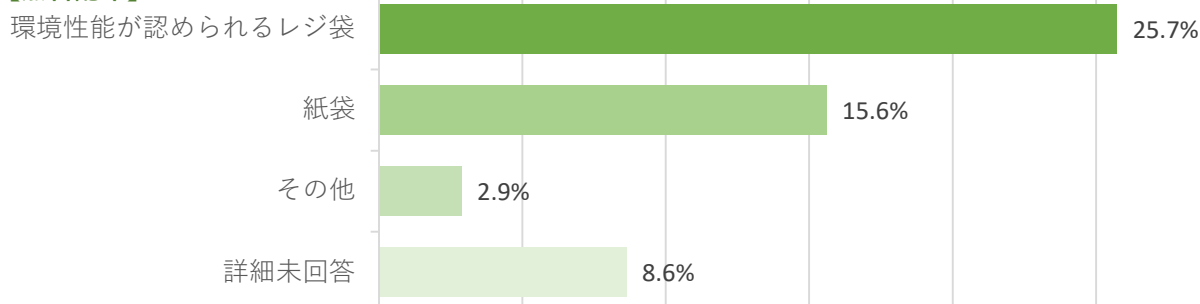
< 配布している買い物袋の種類（複数回答） >

配布している買い物袋の種類は、環境性能が認められるレジ袋を無料配布している店舗が25.7%と最も多く、次に環境性能が認められるレジ袋を有料化している店舗が15.9%だった。レジ袋有料化は政府による「プラスチック資源循環戦略」の取り組みの一環で、「あらゆるプラスチック製買い物袋について有料化することにより過剰な使用を抑制していくことを基本」としている。その基本に従い、環境性能が認められるレジ袋を有料化している店舗が一定数あるということが分かった。また、全体の14.4%にあたる従来のレジ袋を配布している店舗の中には、現在使用しているレジ袋の在庫がなくなり次第、順次、環境性能が認められるレジ袋や紙袋へ転換すると回答した店舗も見受けられた。15.6%にあたる店舗が有料化が義務付けられていない紙袋を有料化していることも分かった。今後、バイオマスプラスチック・紙などの再生可能資源を用いるなど、環境に配慮した買い物袋への転換と有料化が進むのではないだろうか。

【有料配布】



【無料配布】



<業種別 配布する買い物袋の種類（複数回答）>

【アパレル】

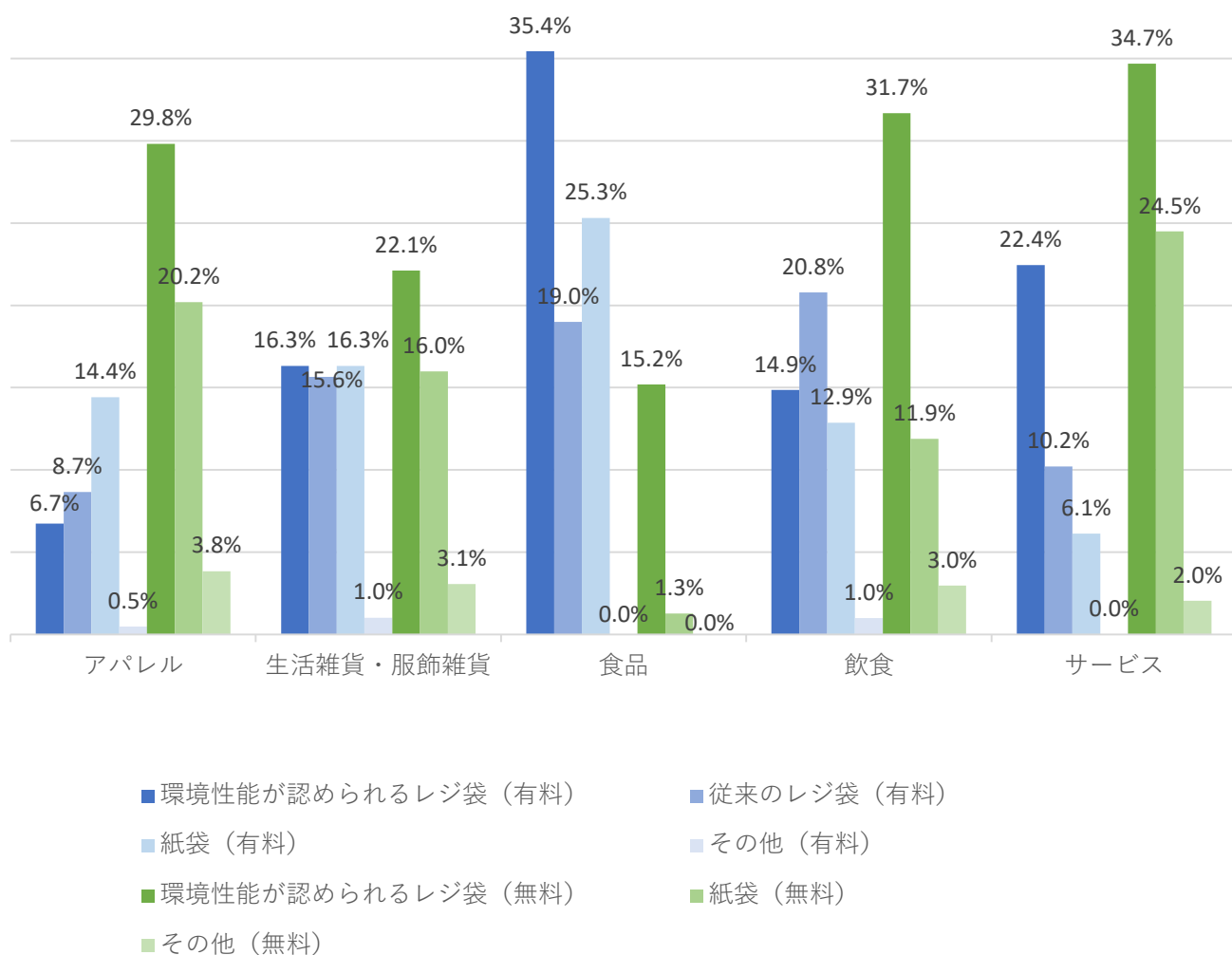
アパレル店舗は、環境性能が認められるレジ袋（29.8%）や紙袋（20.2%）を無料で配布している店舗が多い結果になった。一方、有料と回答した店舗は、環境性能が認められるレジ袋が6.7%、従来のレジ袋が8.7%、紙袋が14.4%だった。この結果から、有料化が義務付けられていない紙袋を有料にしている店舗が一定数あることが判明し、アパレルはプラスチック問題だけではなく資源の無駄を減らすことに重きを置いていることがうかがえる。アパレル業界でもサステナブルな取り組みが加速しており、今後、再生紙100%の紙袋など環境に配慮した買い物袋などを有料化する店舗が増えてくるのではないだろうか。

【食品】

食品を扱う店舗において、環境性能が認められるレジ袋は35.4%、従来のレジ袋は19.0%、紙袋は25.3%が有料化していると回答。食品を取り扱う店舗の多くは、容器包装リサイクル法の省令改正におけるレジ袋有料化により、従来のレジ袋だけではなく、義務化されていない環境性能が認められるレジ袋も有料化したことが分かった。有料化している店舗が多い中、食べ歩きもできるような軽飲食を取り扱う店舗など一部の店舗（15.2%）では、環境性能が認められたレジ袋を無料配布していることも分かった。

【その他】

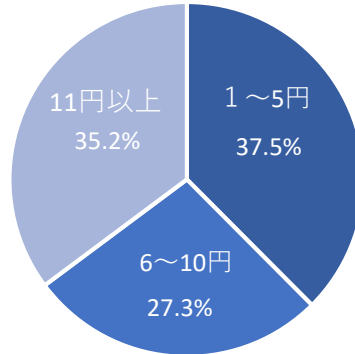
生活雑貨・服飾雑貨、飲食、サービスは、環境性能が認められるレジ袋を無料配布している店舗が多い結果になった。生活雑貨・服飾雑貨では、エコバックの販売を通じて買い物袋の配布削減に積極的に取り組む店舗もあり、今後、このような店舗がさらに増えてくるかもしれない。



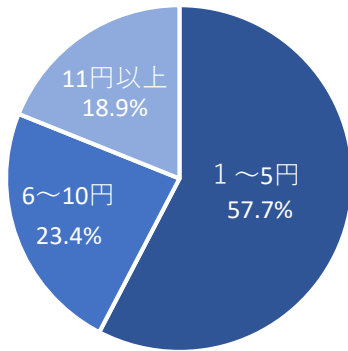
◇ 有料化した買い物袋の価格について（複数回答）

買い物袋の設定価格は、全体の37.5%が1～5円、27.3%が6～10円、35.2%が11円以上という結果になった。環境性能が認められるレジ袋と従来のレジ袋はそれぞれ、約6割が1～5円で設定されており、紙袋の価格は約7割の店舗が10円～20円で設定していると回答した。また、買い物袋の価格を一律にしている店舗と、サイズにより価格を変更している店舗は、ほぼ同等数であった。

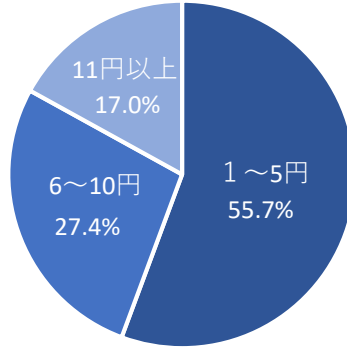
< 買い物袋の価格帯（複数回答） >



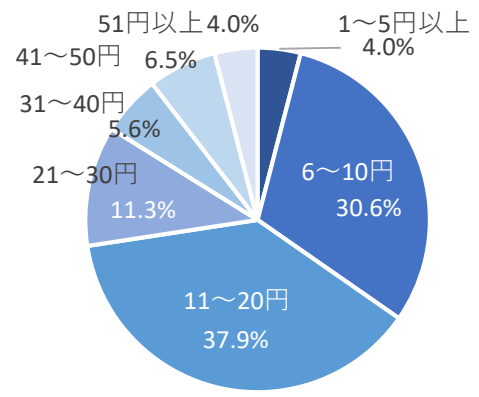
< 買い物袋の種類別 価格帯（複数回答） >



環境性能が認められるレジ袋（有料）



従来のレジ袋（有料）



紙袋（有料）

調査概要

調査対象：株式会社東急モールズデベロップメントが運営するショッピングセンターへの出店店舗

実施期間：2020年6月

調査方法：アンケート

有効回答数：647

< 有効回答の業種別割合 >



アパレル
30%



生活・服飾 雑貨
39%



食品
10%



飲食
14%



サービス
7%

実施：株式会社東急モールズデベロップメント